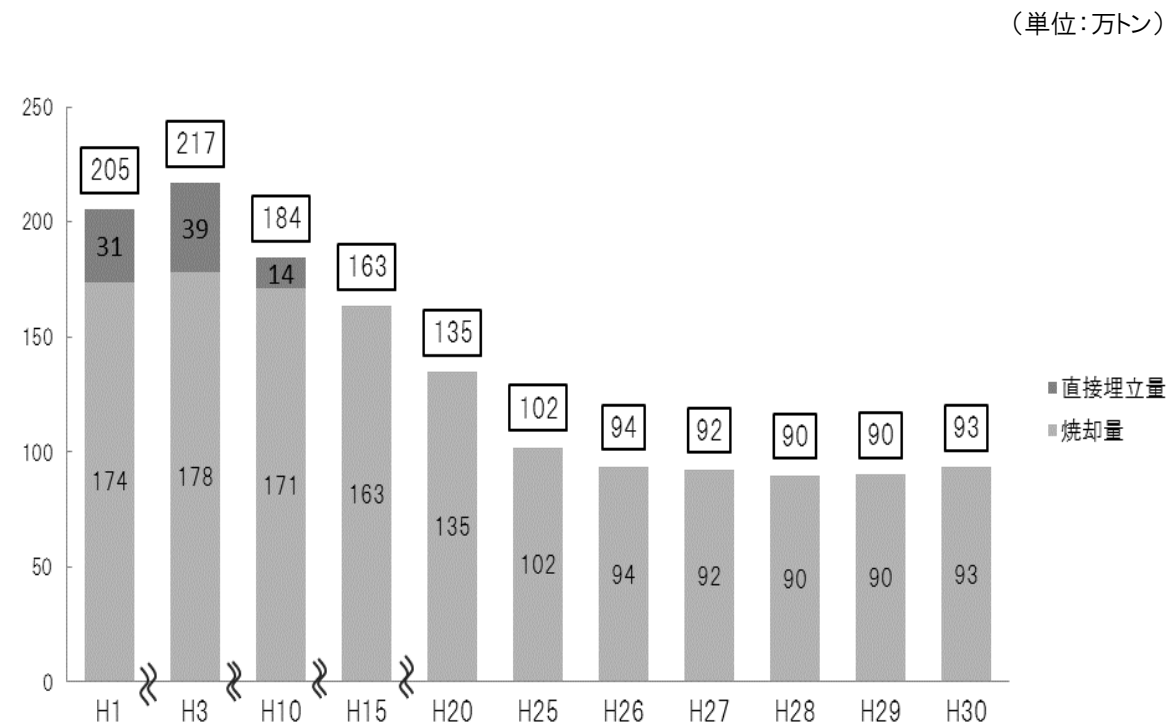


# 大阪市一般廃棄物処理基本計画【改定計画】概要

## 計画改定の趣旨

- ・大阪市の、ごみ処理量は、ピーク時の半分以下となりました。
- ・平成28年3月に策定した「大阪市一般廃棄物処理基本計画」（以下「前計画」という。）では、令和7年度を目標年次としてごみ処理量84万トンをめざすこととしましたが、近年下げ止まりの傾向となっています。
- ・国においては、国際的な目標であるSDGs（持続可能な開発目標）の取組方針が示され、国際的にも「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」（令和元年6月開催のG20大阪サミット）が共有されました。
- ・大阪市も、令和7年大阪・関西万博の開催市として、SDGs達成に貢献する環境先進都市をめざしています。
- ・市民・事業者・環境NPO／NGOなどあらゆるステークホルダーとの連携のもと、SDGsの視点など廃棄物行政を取り巻く状況変化を踏まえ、より一層のごみ減量を推し進めるため、「大阪市一般廃棄物処理基本計画」を改定します。

## ごみ処理量の推移

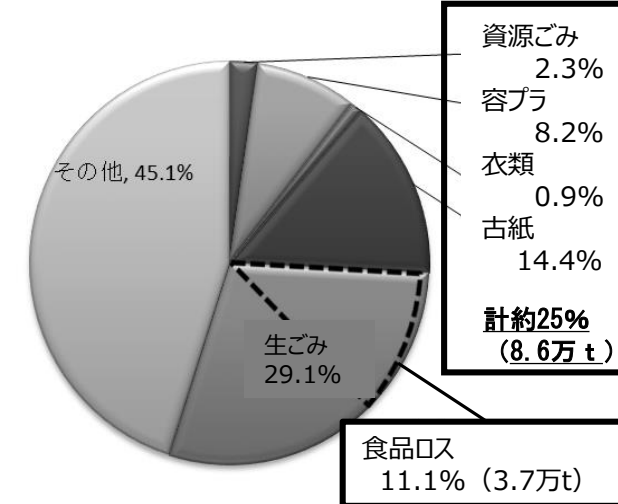


## ごみ処理の課題

- ・近年、世界的に課題となっている **食品ロス・プラスチックごみ** の削減
- ・資源化すべき **紙ごみ** や、適正処理すべき **産廃** が多い

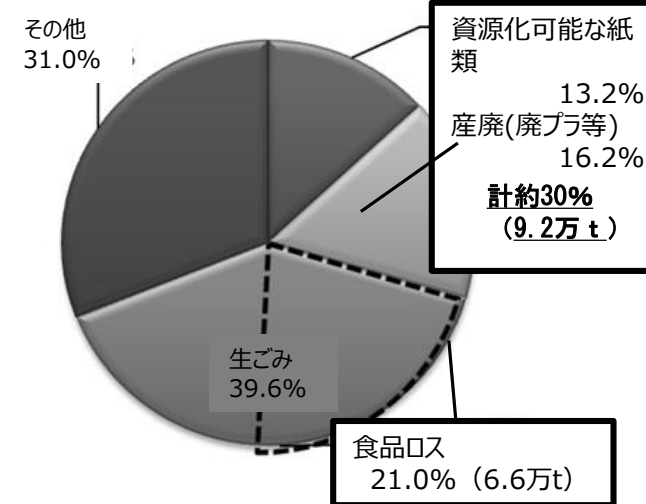
### ■ H30家庭系ごみ

普通ごみの組成 (H30普通ごみ収集実績量: 33.3万トン)

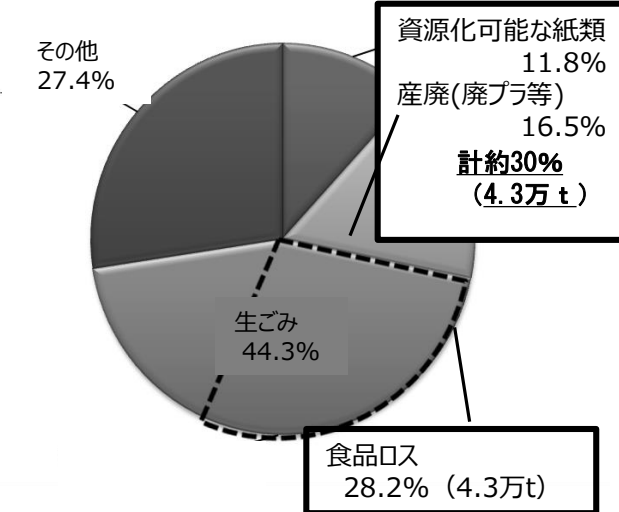


### ■ H30事業系ごみ

小規模事業所 (H30推計量: 31.3万トン)



大規模事業所 (H30推計量: 15.4万トン)



## 今後の方向性

- ・ **食品ロス・プラスチックごみ** ⇒ 新たに焦点 (SDGsの視点) を当てた取組を推進
- ・ **紙ごみ・産廃** ⇒ 引き続き、分別排出の徹底・適正処理を推進

## 計画目標

2025年度の年間ごみ処理量：84万トン（計画期間：2020年度～2025年度）  
（令和7年度）（令和2年度）（令和7年度）

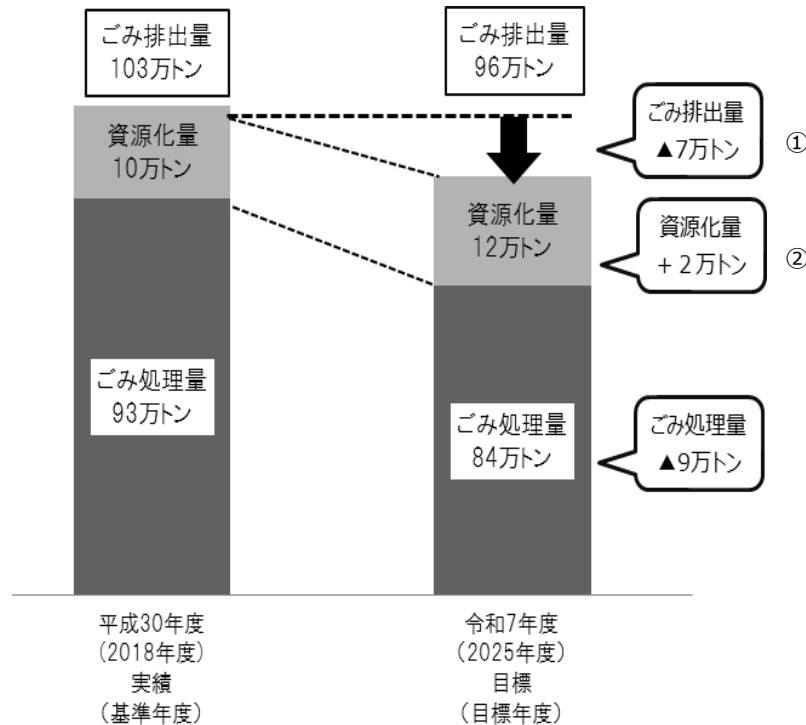
## 計画量

### ○84万トンの内訳

◆排出量  
7万トン削減①

◆資源化量  
2万トン増量②

◆ごみ処理量  
上記①及び②により、9万トン削減する。



ごみの発生抑制や再使用（2R）を優先する前計画の基本方針を踏まえ、  
市民・事業者・環境NPO／NGOなどあらゆるステークホルダーと連携

## 分野別目標

### ○プラスチックごみ

#### ◆削減目標

- ワンウェイのプラスチック（容器包装等）を25%排出抑制(リデュース)する。（平成17年度(2005年度)比）
- 容器包装プラスチックの60%を資源化(リサイクル)する。
- また、ペットボトルを100%資源化(リサイクル)する。
- なお、残りのプラスチックごみについては引き続き削減・資源化を進めるが、**熱回収を含め100%プラスチックごみの有効利用**を図る。

※国の「プラスチック資源循環戦略」を踏まえて策定

#### ◆主な取組み

##### ・大阪エコバッグ運動

急な買い物の時も含めてレジ袋を使用することのないよう、エコバッグを常に携帯する運動を展開

##### ・新たなペットボトル回収・リサイクルシステム

使用済ペットボトルを、地域コミュニティ及び参画事業者と連携協働して回収

### ○食品ロス

#### ◆削減目標

平成12年度(2000年度)比で半減

※国の削減目標を踏まえて策定

家庭系：第四次循環型社会形成推進計画  
事業系：食品リサイクル法に基づく基本方針

#### ◆主な取組み

##### ・フードドライブ

家庭で余っている食品を持ち寄り、社会福祉施設や団体等に寄付する活動を実施しやすい仕組みを構築

##### ・食べ残しゼロ推進店制度

小盛メニューの導入や食べ残し削減の啓発活動に取り組む大阪市内の飲食店などを登録し市ホームページなどで紹介